

趣旨説明

北村尚浩*

おはようございます。鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センターの北村と申します。今日はお集まりいただきありがとうございます。この会の開催の趣旨ということで、簡単に説明をさせていただきたいと思います。昨年は2020年の東京でのオリンピック開催も決まりまして、スポーツの振興という意味では非常に機運も高まっている時期にあると言えます。また鹿児島県におきましては、東京オリンピックと同じ年に国体を開催するというので、人材育成であったりあるいはスポーツインフラの整備といった面からも、非常にスポーツといったキーワードが盛り上がっているところでございます。その一方で、いわゆるパフォーマンスを追及するような競技・スポーツということと併せまして、スポーツや運動が持つ、人々の健康に対する効果、健康増進に対する役割というものも注目されているのは、皆さんもご存知のとおりかと思えます。2000年に第3次国民健康づくり対策として、いわゆる「健康日本21」がスタートいたしましたけど、この「健康日本21」、2012年に実施期間を終えまして、昨年からは「健康日本21」の第2次という形で、新たな健康づくり運動が進められているところでございます。そういった健康づくり政策の流れのなかで、2006年には身体活動、運動に関する普及・啓発を目的としまして、「エクササイズガイド」という健康づくりのための運動基準が作られて、身体活動・運動の普及・啓発が図られてまいりました。そして「健康日本21」の2次がスタートしました昨年には、また新しい運動基準・運動指針が作成されまして、「アクティブガイド2013」として現在、普及・啓発が進められております。また地方自治体におきましては、鹿児島県におきましては「健康かごしま21（第2次）」という計画が発表されておまして、地域レベルでの健康づくり政策というものも進められております。

今日の協力者会議におきましては、まず国立健康・栄養研究所の宮地先生のほうから「アクティブガイド2013」の話を中心に、国の健康づくり政策・施策につ

いてお話しいただきます。宮地先生は「健康日本21」の1次の評価作業チームの一員として、運動に係わる項目の評価に携わってこられました。また「エクササイズガイド」、「アクティブガイド」等の策定にも関わっておられまして、現在は「アクティブガイド」の普及・啓発ということで全国を駆け回っていらっしゃいます。

その次に、私から地方自治体レベルでの健康づくり政策への取り組み状況ということで、鹿児島県の市町村を対象に行いましたアンケート調査の結果をご報告させていただきたいと思えます。

そして最後に、地域での健康づくり事業の実践について、NPO法人DREAM ウェルネス代表の幸福恵吾さん、ご自身の活動について発表いただきます。幸福さんは、以前は中学校の先生をされておったのですが、その職を投げ打ってまでNPOを立ち上げられて、現在は南大隅町での地域の健康づくり、介護予防のために活動なされています。

このように、国の政策、そして市町村の取り組み、そして地域の実践という3つの側面から、地域における健康づくりと運動・スポーツについて議論が深まっていくことを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

*鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター長